

## 曾保みかんの明日を信じて

まるく農園組橋 代表者 組橋 聖司

ひよんなことがきつかけで本誌への投稿の依頼を受け、まだ栽培歴十年程の私ですが、三豊市仁尾町の『曾保みかん』を紹介させていただきます。

仁尾町曾保地区のみかんは現在より百二十年以上前、明治二十三年（一八九〇）、浅野多吉翁によって紀州和歌山より持ち帰ったのが始まりです。その後水田の少ないこの地域にみかん栽培がむいていくことと、まだ珍しいみかんが高値で取引されることにより、七宝山の頂上付近まで人力により開墾され、曾保地区はみかんの産地となり始めました。

多大な労力を要するみかんの運搬の変遷として、昭和初期までは天秤棒による運搬でした。

当時から昭和初期までは、山間部から二個で八十キロ

グラムのみかんが入った大かごを、天秤棒で背負って運搬をしていました。標高二百、三百メートルを越す園地もあり、リレー方式によって何人かで降ろしていた時には逃げ出してしまう人もいたそうです。

簡易索道による運搬は昭和二十四年、ワイヤーによって手動の小型ロープウェイのようなものを使い、山間部から運搬していました。制空権を争う事態になるほどワイヤーが張巡らされたそうですが、モノレールの普及や農道の整備に伴いその姿は完全に消えました。

オート三輪による運搬は昭和二十八年頃からです。

このオート三輪の登場により運搬作業は飛躍的に向上されました。そして昭和四十年に軽四輪トラックの登場によって主役の座を譲り現在へ至っています。

このように運搬だけでも短期間で大きく変わった時代を経て、曾保みかんは現在まで続いています。

私はおいしいみかん栽培の大きな三要素として、日照量、水管理、肥料だと思っています。仁尾町はこの狭い



みかん畑から望む燧灘（右後方は鳶島）

地域にため池が大小含め四十三もあり、全国でも有数の少雨、多日照量の地域であり、みかんの糖分があがりやすい条件を満たしています。また高知県の早明浦ダムの完成から十年後の、昭和五十八年に香川用水が仁尾町に導入されたことにより、その年の降水量に左右されない酸度調整もでき品質が向上してきました。

当園では肥料にも長年試行錯誤しながら厳選した肥料を使用しております。

みかんの味は肥料で大きく変わってきます。

昭和二十四年生まれの父は、果樹研究会として三十年程前から香川県生協と取引をしております。普通の農家であれば

栽培したものは農協か市場に出荷すれば終了ですが、生協と取引をしているために収穫したみかんを倉庫に貯蔵しておき、受注がある分、選別を行い出荷しております。

その中でやはり果物の本質は味（当時の市場では見た目や大きさが重視されていた。）であると感じたので、私が主になってからも産直販売に力を注いでいますが、お客様と直に向き合っているとやはり味には細心の注意を払っています。

#### 地域農業の後継者として

私は農家の後継者として曾保みかんに携わってみると、その時々を試行錯誤を重ねながら、その時代その時代の人が引つ張ってきたのだなと心底思います。

また全国的に農家の若手不足となっている状況ですが曾保地区でも例外ではなく、むしろ他より若手が少ない状況です。五十代以下は十名程で六十代以上の方が引つ張って支えているのが現状です。昭和四十三年、昭和四



みかん畑をバックに筆者

十七年にみかんの相場が大暴落するということがありました。それまでは全国的に増産と高価格で推移していましたが、四十七年にはとうとう生産量三百六十五万トン（現在のおよそ四倍）となり「猿も見向かぬ今年のみかん」と言われた年でした。そのような中でも生産意欲を失わず、かえって、よりいっそう品質の良いみかんを栽培してきた先人

たちの気持ちを、

私は後継者として

継承していかなければならないと思います。

また農業は地域があつてできるものですが、新規にみかんを栽培するのは難しいと思



曾保のみかん畑

ます。

果物全般に植えてからまともに収穫できるような収穫まで四年程かかってしまうので、

そのことが若い人には難しいのです。

そこで、まるく

農園では家族（父、母、私、妻、パ

トの方以外に研修生を受け入れ始めました。まだ研修生の実習経験は二年ほどですが、少しずつ技術を身につけていっています。栽培技術を身につけて、ゆくゆくは自分の農地を少しでももって若い人が増えることを、地域の活性化につながると思い、望んでいます。

みかん園から眺める瀬戸内海は穏やかでどこまでも青

く、秋ともなれば、朝日に照らされたみかん園は黄金色に輝いていました。こんな景色をあたりまえのように眺めながらこの地で育ち、父、またたくさんの地域の方と携わらせてもらいながら曾保みかんを栽培しております。二十代から八十を越える方が、同じ土俵で仕事をするというの是一般の会社ではあまりないことだと思います。しかし地域農業はそうあるのが自然だと思います。これからも仁尾町の曾保みかん栽培の発展を祈願いたしております。

観一・50回（平成11年卒）

※ みかん、せとか、たまみ、デコポン、はるか、レモン、キウイ、はっさくを生産しています。『お気軽にお問い合わせてください』。

千七六九―一四〇八

香川県三豊市仁尾町仁尾甲六九〇―二

「まるく農園 組橋」

代表者 組橋 聖司

電話番号 〇九〇―四五〇三―八九三三

Eメール : [mikan\\_marukumi@yahoo.co.jp](mailto:mikan_marukumi@yahoo.co.jp)

ホームページ : <http://www.marukufarm.com/>